



第 58 号
平成26年11月吉日
発行
茅野高等学校同窓会
発行人 原田年子
編集人 吉田貞雄
印刷 (株)サラト

これからの母校の発展について

同窓会長 原田 年子

同窓生の皆様には、益々御清栄の事とお喜び申し上げます。今年は、災害が全国各地で発生する中、近くの御嶽山の噴火には驚くばかりです。同窓生の皆様は大丈夫でしょうか。また、災害は何時どこで遭うかわかりません。自分の身は自分で守ることの大切

さを改めて感じているところ
です。

さて、同窓会も学校と共に、多方面に亘り活動しておりますが、入学生の減少傾向に歯止めが掛からず、部活動にも支障を来たしております。現在、少しでも入学生を増やそうと、学校

PTA、市や地域の皆様、企業の方々と共に、地域と共に歩む会の活動を始めております。全国でも二つの国宝を持つ茅野市にある茅野高校は、素晴らしい立地にあると思います。しかし、このまま入学生の減少が推移すると、今後母校の再編

問題が浮上することは避けられませんが、同窓会は元より地域としても、茅野市唯一の公立高校を存続させることは重要な課題と考えます。そのためには、同窓生の皆様方の力強い協力がなくては、対応する事はできません。これからの学校課題に目を向けていただき、学校、PTA、地域の皆様と力を合わせて取り組む事が必要です。伝統ある私たちの学校が百周年を迎えられるよう、すべての同窓生の皆さんのお力添えをいただいで、取り組んで行きたいと思っております。今後とも皆様の英知を結集し、学校存続の為に邁進してまいります。皆様の絶大なご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



学校の様子

学校長 大田 一昭

同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。また、物心両面にわたり本校に温かいご支援を賜り誠にありがとうございます。

一昨年、茅野高校は七〇周年の記念事業を終え新しいページに入っています。昨年度は、茅野高等学校地域と歩み発展させる会が発足いたしました。茅野商工会議所会頭宮坂孝雄氏を会長に、茅野市長柳平千代一

氏、原村村長清水澄氏、茅野市教育長牛山英彦氏に顧問として就任いただきました。しばらくすると第二期の高等学校再編計画がスタートします。茅野市から公立高校の灯は消してはならないという思いで対応していかなければならないと考えています。

さて、先日宮坂孝雄社長に校長室に立ち寄っていたいただきました。その際、宮坂会長の同級生 柿沢昭宣氏(京都大学卒、現摂南大学助

教授)が経済学の本「株式会社と現代資本主義の変貌」をいただきました。当時の卒業生、各界でそれぞれが活躍されていたお話を聞き、あらためて茅野高校の歴史の深さに感じ入りました。さらには、宮坂氏より日本経済の今後についても熱いお話をいただきました。これからの開拓の分野は、医療関係、航空関係そして、インフラの関係であり、どう付加価値をつけ商品を開発するかが鍵と

八ヶ岳西山麓の縄文時代遺跡の発掘と茅野高生



国宝「土偶」(仮面の女神)

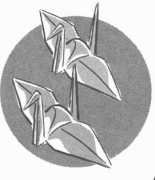
尖石縄文考古館館長 守矢 昌文 (昭和48年入学)

八ヶ岳西麓は縄文時代の遺跡が多いことで知られており、豊平地区には縄文時代中期の典型集落としての国特別史跡尖石遺跡が、北山地区には中部高地の縄文時代後期・晩期を代表する国史跡上之段遺跡があり、米沢地区には黒曜石製石器を加工した場所と考えられる国史跡駒形遺跡など日本

を代表する遺跡に加え、平成七年縄文時代の考古遺物として最初に国宝に指定された「土偶」(縄文のビーナス)、湖東地区には平成二十六年国宝に指定された中ツ原遺跡出土の「土偶」(仮面の女神)などの優れた縄文時代の遺物が遺されています。

麓には豊かな自然・清らかな水が溢れ、また、石器の素材となる黒曜石に恵まれていたこの地は、縄文文化が花開いた地と言えます。私たちが住んでいる周辺の畑では土器や石器が採集され、身近で触れる機会に恵まれています。特に、尖石遺跡や八ヶ岳山麓の縄文時代の研究を推進した宮坂英次先生の影響は大きく、昭和二十一年以降尖石遺跡北側に隣接する与助尾根遺跡で郡内外の高校生が集結し行われた発掘調査は、当時の高校生の知的好奇心を刺激し、茅野高校生も昭和三十三年に宮川山ノ神遺跡、昭和四十二年には玉川中御前遺跡の発掘調査を行うなど考古学の活動が盛んでし

地域の中の子どもの居場所



CHUKORANDINO スタッフ

半田 裕 (平成12年入学)

茅野駅前ベルビア2階にあるCHUKORANDINOは、中高生が自主運営をする中高生世代だけが利用できる子どもたちの居場所です。茅野駅前というところもあり、普段から多くの茅野高生が利用してくれています。普段は学校帰りに友達と話をし過ぎたり、バンドやダンスの練習をする

るなど、思い思いの放課後の時間を楽しんでいます。チノチノにはキッチンもあり、最近では料理を覚えたいという女の子が毎日のようにハンバーグやロールキャベツなどに挑戦しています。また夏には未就園児の親子の施設である0123広場で夏祭りがありました。その際、チノチノには、「ちい



さな子たちがお土産を持って帰るための袋にイラストを描いてほしい」とお願いされました。その時200近くある袋に一所懸命イラストを描いてくれたのは茅

野高生でした。それがきっかけとなり将来保育士になりたいという思いを持った子が0123広場に遊びに行き、子どもたちと触れ合うようにもなりました。このように、自分たちが安心して利用できる居場所を拠点として、その中で料理など自分の興味のある活動を一所懸命やったり、また自分たちの活動だけで完結するのではなく0123広場など地域の場所にも関心を寄せ活躍してくれています。このことが地域の中に自分たちが受け入れられているという思いを持つことにつながっていくと、これらと思えます。



た。このように地元の歴史を学ぶ姿勢や何にでも興味を抱き、それを突き進めることを忘れずにいたいものです。